

花いっぱい+笑顔いっぱい=観光資源

発表者：花の里づくりの会
会 長 儀 保 充

花の里づくりの会（紹介）

花の里づくりの会は、平成10年（1998年）岸本建男名護市長の「心安らぐフラワースティー名護」花の里づくりを目指し、花いっぱい普及事業を支援し積極的に推進する事を目的に設立されました。名護市地域経済部観光課が所管となる任意団体です。

会員は、一般会員（個人）36人、賛助会員（企業・団体）177社が花の里づくりの趣旨に賛同頂き、活動を共にしています。長野県松本市に事務局を置く、全日本花いっぱい連盟に所属し各地の花いっぱい活動をお手本に活動しています。

花の里づくりの会とは？

花の里づくりの会の活動拠点は、名護市許田1067番地 道の駅許田の東側山奥に、ポツンと一軒家状態でこの先行き止りの所にある、土づくりメインセンターがあります。そして地域の活動拠点となる住区土づくりセンターとして、羽地中センター・屋我地センター・真喜屋小センター・源河センター・安和小センター・屋部センター・瀬嵩センター・久辺中センター・天仁屋センターの10ヶ所で年間20万本の花苗を生産しています。

花の苗づくり

1cm四方の小さなプラグ苗を、ひとつずつ丁寧に育苗ポットへ移植し1ヵ月ほど水やりを怠らず慎重に育てます。プラグ苗の移植作業は時間との戦いなので沢山のボランティア作業員の手作業で行います。55各区をはじめ、会員企業や団体、市役所職員や市議会の議員などのボランティア活動で1週間以内に終わらせています。この春中学校に入学したばかりの県立名護高等学校附属桜中学校の1年生40人が、技術の授業として3200本の植付を手伝って頂きました。このような作業を他の住区土づくりセンターでも同時期に実施しています。

評価・表彰

花いっぱい運動の広がりを評価頂き、表彰を受けています。

平成18年(2006)国土交通大臣 道路ふれあい月間

平成 22 年(2010)名護市市制 40 周年功労者賞
平成 23 年(2011)名護警察署 警察協力功労賞
令和 2 年(2020)沖縄県知事 ちゅらさん運動貢献賞
令和 3 年(2021)第 14 回 タイムス地域貢献活動賞

第 60 回全日本花いっぱい名護大会

名護市市制 50 周年記念事業として花の里づくりの会は、花いっぱい運動のさらなる機運を高めることを目的に、全日本花いっぱい名護大会を名護市の主催で開催しました。大会参加者 2 千人を予想し 2020 年度の開催予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止を鑑み、1 年延期し令和 4 年 3 月 5 日に開催しました。花いっぱい連盟関係者のご挨拶はビデオメッセージとし、参加人数の制限と感染拡大防止策を施して、次年度開催地和歌山県田辺市へ大会旗を引継ぎました。

名護市のシンボル「テッポウユリ」普及事業

名護市市政 50 周年記念事業として、名護市のシンボル「テッポウユリ」を普及させる目的で名護市の人口 6 万 4 千球のテッポウユリの球根を、在来種に近い品種（ひのもと）を鹿児島県和泊町（沖永良部島）生産者協同組合と和泊町観光課のご協力により準備した球根を市内各所へボランティア作業員のご協力で球根を植え付けました。その中の 1 万 5 千球を冷凍・冷蔵保存技術により開花調整を施し、1 月下旬～2 月中旬にテッポウユリを開花させて名護さくら祭りや日本ハムファイターズ春季キャンプで名護に訪れた大勢の方をビックリした笑顔でお迎え出来ました。テッポウユリの本格的な大規模栽培は経験が浅く令和 3 年度の栽培では、生育初期に茎先が長雨の影響でウイルス病により被害を受け心配しましたが、沖永良部花き専門農業協同組合の方から指導及び管理方法を伝授していただき対応し事なきを得ました。令和 5 年度の栽培では、今までの経験を活かし花壇の水はけを良くするための対策として、畝を高くして球根を植え栽培環境を整え、アブラムシ対策では光を嫌う性質を考慮し、銀色のテープで転倒予防を兼ねテッポウユリ周囲に張り巡らせるなど試行錯誤を繰り返し栽培技術の向上に努めています。

花いっぱい！

春と秋のフラワーキャンペーンで育てた愛らしい花々が、55 区の花壇など市内に咲き誇ります。亜熱帯沖縄らしく、色とりどり鮮やかに咲く花は大勢のボランティア作業参加者が、毎日の水やりと苗の育成を阻害する雑草取りなど、日頃の努力の賜です。

花いっぱい活動は、心身の健全な育成につながり満開の花を咲かせたことの達成感は何度味わっても格別な喜びとなっています。花いっぱい活動に参加された個人、団体、企業へは「ボランティア活動証明書」を希望者へ発行し花いっぱい運動の啓発につなげています。

笑顔いっぱい！

身近に花が有る事は、心身に安らぎとリラックスを与え自然に笑顔になります。

花の里づくりの会で育てた多くの花は、公共施設の花壇や教育施設をはじめ、市内事業者及び名護市や各種団体の開催するイベント会場の飾花に提供しています。

1月の新春の集い、成人式、名護さくら祭り、日本ハムファイターズ春季キャンプ、羽地ダムこいのぼり祭り、名護夏祭り、地域ウォーク、ツールド沖縄、ほか多くのイベントで花を咲かせ、笑顔あふれるフラワーシティー名護のお手伝いに貢献しています。

観光資源

名護さくら祭りは、2日で15万人～20万人の人出がある名護で最大のイベントとして知られています。名護さくら祭りが60回の開催となる節目として、なんぐすく周辺の寒緋桜や、まつり会場周辺の幸地川沿い寒緋桜133本を植えかえて、花見を楽しむ環境の整備をした効果は大きく、すぐ身近に寒緋桜を感じています。

日本ハムファイターズ春季キャンプが、2月1日よりタピックススタジアム名護球場と周辺施設で約1ヶ月間の開催するに合わせ、タピックススタジアム名護球場前の大型花壇へ開花調整したテッポウユリを咲かせ、多くの見学者が訪れています。

さくら祭りの寒緋桜と春季キャンプ時期に咲くように調整したテッポウユリは、両花とも名護市のシンボルであり、花を愛でる多くの見学者を、マスコミ各社が報道して頂く事は、各地に無料で名護市の広報となり、SNSなどでの配信もフラワーシティー名護の印象付けとなって名護市へ行ってみたい、また行きたいと感じて頂き観光資源に貢献している事と思います。

観光資源（将来）

日本各地では、芝桜やネモフィラ、チューリップ、コスモスなど花を楽しむ大規模な花壇でのイベントが多くあります。国営沖縄海洋博公園の花のカーニバルは有名ですが、亜熱帯の沖縄の花のイベントは少なく感じます。

花の里づくりの会がボランティアサポートする宮里三丁目交差点大型花壇にて、酷暑の夏での緑化作業が困難な時、試験的に栽培したコキア（ほうき草）が、メンテナンス作業がほとんど無くても成長しました。独特な樹形をした緑色で愛らしい見たことのないコキアは来年の夏のシンボルとしてお披露目できるよう計画中です。

令和6年9月13日